



(3,000円)

実用新案登録願

昭和50年10月23日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 考案の名称 ス コ ッ プ

2. 考案者

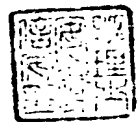
住所 実用新案登録出願人と同じ
氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 ハママツシセキシチヨウ
静岡県浜松市横志町899番地
氏名 カナ ザワ ユキ オ
金 沢 幸 男

4. 代理人 田 102

住所 東京都千代田区五番町2番地4
氏名 (6437) 弁理士 安 達 信 安
田 (262) 0720代



5. 添付書類の目録

| | |
|-------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |



明 細 書

1. 考案の名称

スコップ

2. 実用新案登録請求の範囲

スコップ皿 1 の上縁付近に、ラチェット歯 2 及び凹部 3 を刻設した軸 4 を固定し、該軸 4 を軸管 7 によって枢着圍繞せしめ、この軸管 7 に柄部 9 を直結すると共に柄部 9 内に前記軸 4 のラチェット歯 2 及び凹部 3 に押圧係合されるピン 10 を有するロッド 12 を内设し、ロッド 12 上部に引上
取手 13 を形成してなるスコップ。

1字加入



3. 考案の詳細な説明

本考案は、柄部とスコップ皿の傾斜角度を任意に調節し得るスコップに関するものである。

従来、スコップを使用して深い溝や穴を掘る場合、柄部とスコップ皿との傾斜角度が一定であるため、土砂をすくい上げるのが極めて困難であり、作業能率も極めて低かった。

本考案は、かかる従来の不便を克服し、柄部と

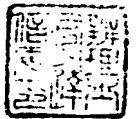
スコップ皿の傾斜角度を任意に調節可能とし、堀削作業の能率を向上させることを目的とするものである。

本考案は、スコップ皿の上縁付近にラチェット歯及び凹部を刻設した軸を固定し、該軸を軸管によって枢着囲繞せしめ、この軸管に柄部を直結すると共に柄部内に前記軸のラチェット歯及び凹部に押圧係合されるピンを有するロッドを内设し、ロッド上端部に引上取手を形成したことを特徴とするものである。

さらに、本考案の一実施例を図面にもとずいて説明すれば、図示例において、スコップ皿 1 の上縁付近に、ラチェット歯 2 及びその両側に凹部 3 を刻設した軸 4 を、スコップ皿 1 に固着された支持板 5 にボルト 6 によって固定し、この軸 4 は円筒状の軸管 7 によって回動可能に枢着囲繞される。軸管 7 には上端にハンドル 8 が形成された柄部 9 が直結され、該柄部 9 内には下端に前記軸 4 のラチェット歯 2 及び凹部 3 に係合するピン 10 を有し、スプリング 11 によって常時下方に押圧さ

れるロッド 1 2 が内設され、ロッド 1 2 の上端部の前記ハンドル 8 近く^に引上取手 1 3 が形成されている。また、軸 4 には溝 1 4 が刻設され、この溝 1 4 内に凸設されるノック 1 6 が軸管 7 にねじ 1 5 によって固定され、回動距離を制限している。

1字加入



図中 1 7 , 1 8 はロッド 1 2 の上下のガイド部材である。

しかしてその作用について説明すれば、まず、第 2 図示の如き状態のまま、スコップ皿 1 を土の中に差し込み、引上取手 1 3 を引き上げてピン 1 0 を凹部 3 から外し、ハンドル 8 を前方に動かして引上取手 1 3 を放す。

上記の動作を行うと、ピン 1 0 はスプリング 1 1 の押圧力によりラチェット歯 2 と係合し、その後は、ハンドル 8 の前後運動により、第 5 図鎖線で示すように、スコップ皿 1 と柄部 9 との傾斜角度が変ってゆき、遂にはピン 1 0 は凹部 3 に至り、スコップ皿 1 は第 5 図実線の如き角度となり、土砂はスコップ皿 1 から滑り落ちることなく外部へ取り出すことができる。

外部へ引き上げたのちは、再び引上取手 1 3 を引き上げ、第 2 図示の如き状態に復原させたのち、再び前記の動作を繰り返して掘削作業を行う。

以上述べたように、本考案は、スコップ皿と柄部とを枢着し、その傾斜角度を任意に調節し得るようにしたものであるから、溝や穴を掘削する場合に、必要以上に広く掘削することなく、土砂を確実にすくい上げることができ、短時間で容易かつ正確に掘削作業を行い、労力を省き作業能率を大幅に向上させることができる等、実用上極めて有益なる利点を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案に係るスコップの一実施例を示すもので、第 1 図は一部切断正面図、第 2 図は切断側面図、第 3 図は第 2 図の一部拡大図、第 4 図は全体斜視図、第 5 図は使用状態を示す説明図である。

1・・・スコップ皿、2・・・ラチェット歯、3・・・凹部、4・・・軸、5・・・支持板、7・・・軸管、8・・・ハンドル、9・・・柄部、10・・・ピン、1

1・・・スプリング、12・・・ロッド、13・・・引
上取手。

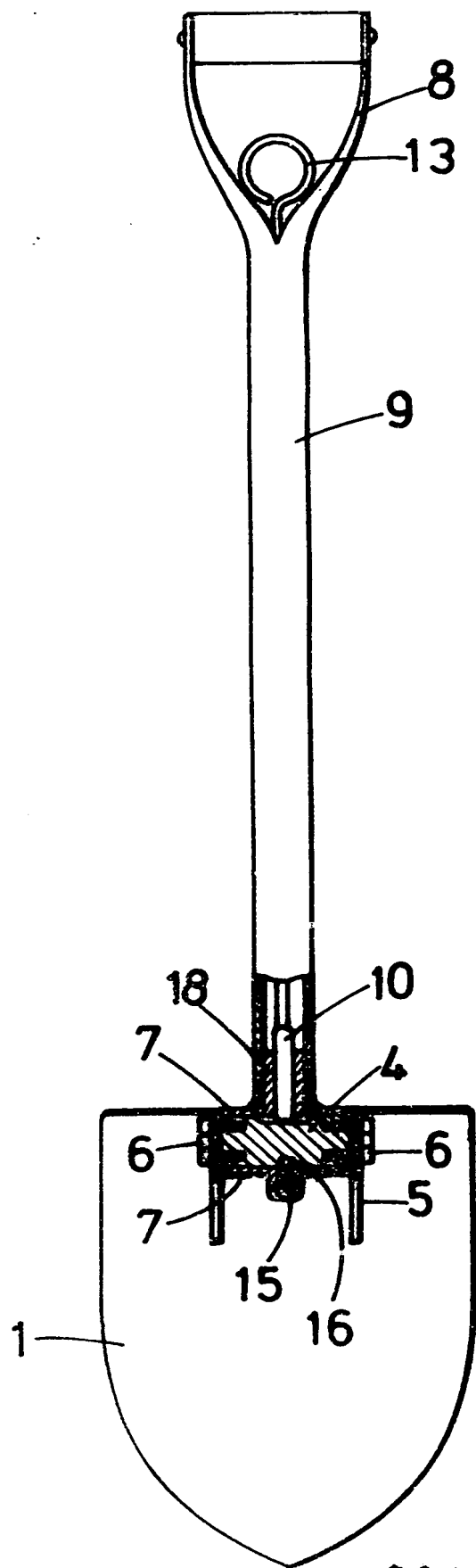
代理人の氏名

弁理士 安 達 信 安

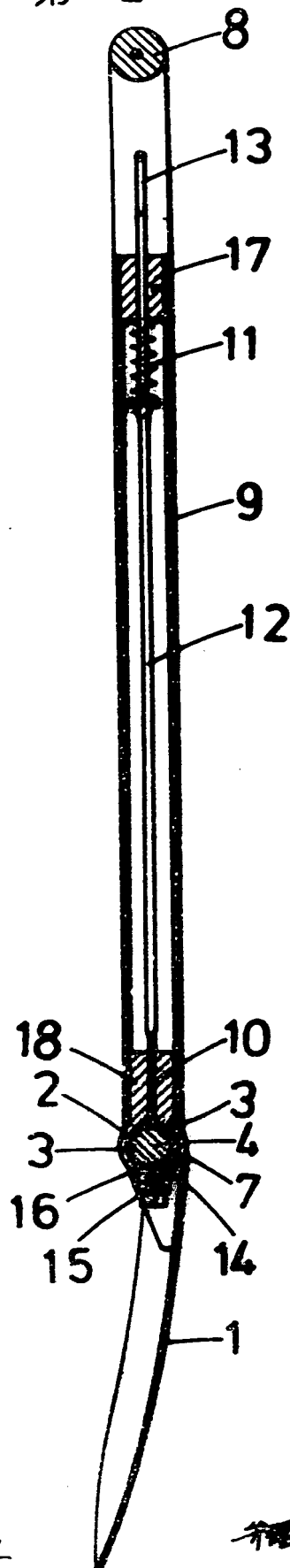


2/10/15

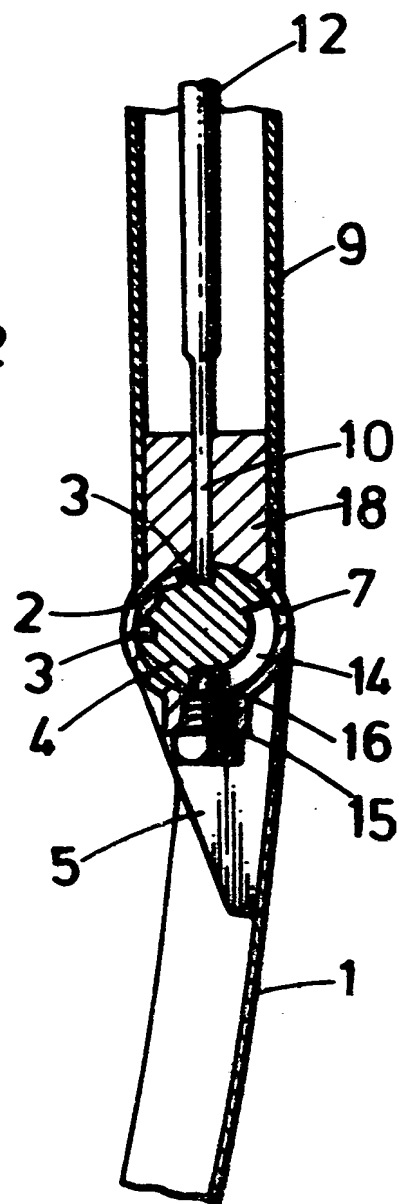
第 1 図



第 2 図



第 3 図

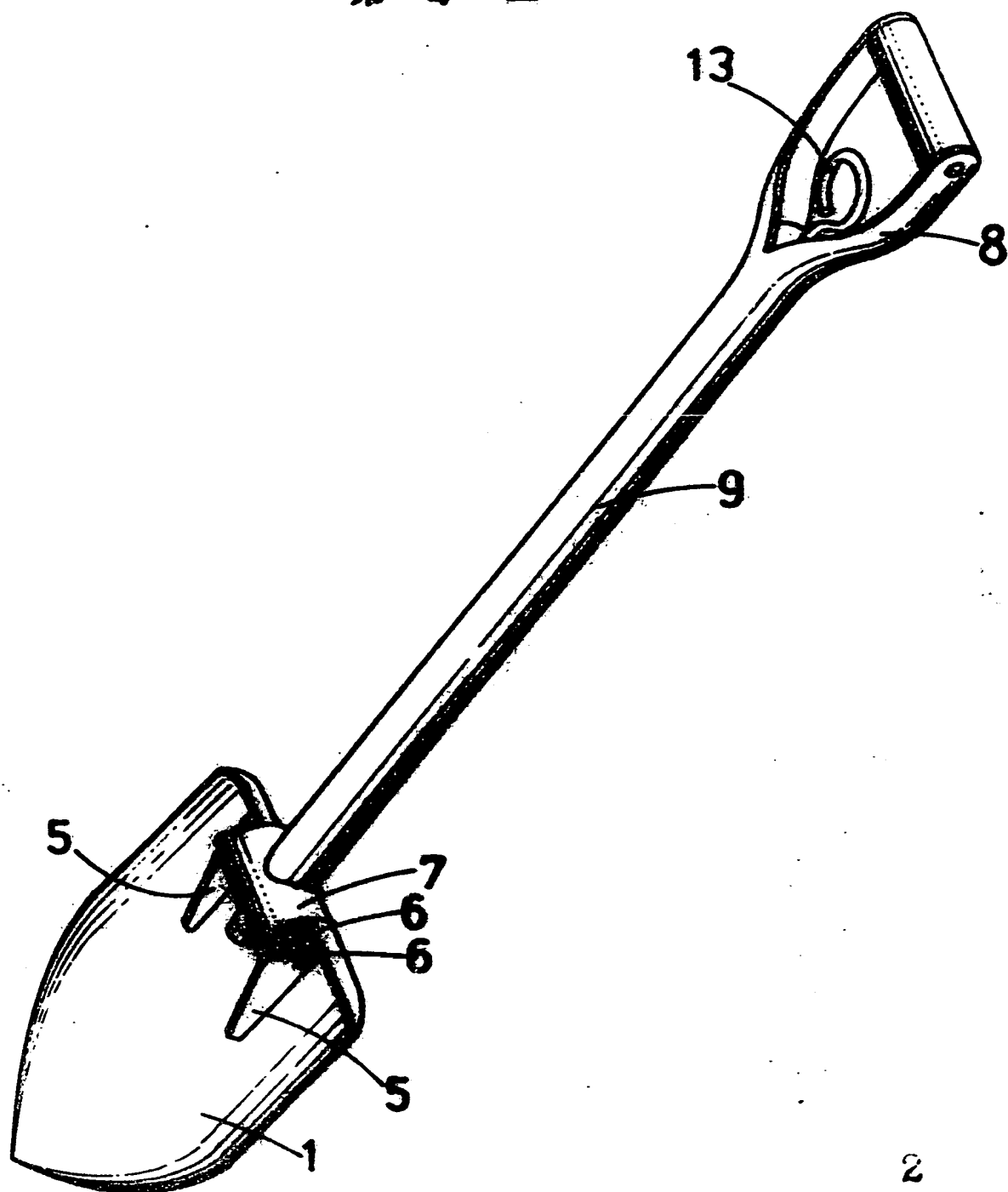


1

569013

代理人の氏名
安達信信

第 4 圖



56901号

代理人の氏名
弁理士 安達信安

第 5 図

